

「運営に関する計画」

【 最終反省 】

大阪市立大和川中学校

令和6年2月

大阪府立 大和川中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、昨年度創立 50 周年を迎えた。数年前に学校の秩序が乱れ、大きな学校崩壊を経験し、学校再建として大阪府教育振興計画の第1ステージ（平成25年度から28年度）の27年度より「秩序構築」をテーマに「時間を守る、ルールを守る心の育成」を進めた。新たに学校行事の取り組みとして1年生入学時に宿泊オリエンテーションを取り入れ、「時を守り、場を清め、礼を正す」の自主自律の精神の育成、また「命を考える」教育活動の柱とした「平和維持学習」の取り組みにより、「自律する力、他者を意識し思いやる心」の育成を教職員一丸となって進めてきた。その結果、年々生徒の規範・規律意識も高まり、生徒は安定した状況で学校生活や落ち着いた授業を取り戻すことができている。取り組みから9カ年を経て、学校が安心して安全に生活できる学校へと大きく変わることができ、令和4年度末の校内調査において、「学校のきまりや規則を守っていますか」の項目に対し、肯定的な回答が97%と指導がしっかりと浸透してきた。しかし、将来の夢や希望についての目標設定についての項目では、肯定的な回答が65%と低く、また、学習習慣についても「自分で計画を立てて勉強をしていますか」では56%と、家庭での学習習慣の定着していない生徒が多い。基礎学力の向上までには、今一步及んでいない。「誰一人取り残さない学力の向上」の取り組みとして、引き続きICTを活用した毎時間の授業や学びの振り返りや単元テストで日々の「生徒のつまづき」や課題の把握をし、教師の授業改善や「生徒一人一人の学びを最大限に引き出す個別最適な学びの実現」の加速をすすめる。それにより、生徒が「学ぶ楽しさ」を実感し、教師にとっても「教える喜び」につなげる。

大和川中学校が「安全で安心して集団生活を送ることができる」最高の学びの場を構築する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を令和3年度より90%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、令和3年度から5ポイント増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている自分には良いところがありますか」に対して、肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査の「習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。

- 令和7年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答をする割合を70%以上にする。
- 規則正しい生活を身につけている児童生徒の割合（校内調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日同じくらいの時間に早寝・早起きしていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を令和7年度調査において、70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応のため、また、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、毎日の学習者用端末使用率を令和7年度末において95%にする。
- 令和7年度において「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を60%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を79%以上（昨年：78.6%）にする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合を60%以上にする。

学校園の年度目標

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を 80%以上にする

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- 学習者用端末を活用した家庭学習を週 3 回実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 60%以上にする。

学校園の年度目標

- 学習用端末を活用した家庭学習を週 3 回以上実施する。

3、本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

すべての生徒が安全で安心して通え、学習できる教育環境の実現を図るために、「秩序構築」をテーマに、まずは 1 年生宿泊オリエンテーションで中学校生活について、授業の受け方、集団行動などのガイダンスを実施。「時を守り、場を清め、礼を正す」の自主自律の精神の育成を図るため、児童から生徒への意識改革を行い、授業規律の徹底に努めた。他者を意識させることで、「ごめんね」「ありがとう」を素直に感じ、表現できるように導き、身近な平和を継続させる、本来のあるべき「安全安心な学校づくり」につながっている。

また「命を考える」教育活動を柱とした「平和維持学習」の取組みにより、文化発表会では、各学年が「いのち」をテーマとした舞台発表に取り組んだ。

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的な回答する生徒の割合は 97.2 %で、ICTを活用したいじめアンケートを実施し、早期対応を行った。学校で認知した案件に対し、対応率および解消率においても 100%であった。生徒会が中心となり、いじめ防止に取り組んだことも、生徒が主体的にいじめに対する意識向上になったと考えられる。

○不登校生徒の在籍比率は前年度より 1 割強の減少、また、前年度不登校生徒の改善の割合も前年度より 2 割増加した。今後もリモート空き教室など活用し、「いつでも、どこでも学べる」環境づくりを推進していく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

今年度も前期・後期の2期制を実施し、授業時間の確保、各教科での進度にゆとりをもたせた。単元テストを行うことで、課題をより細かく見取れるように取り組んだ。また、今年度より、新しい取り組みとして、「生徒一人一人の学びを最大限に引き出す、個別最適な学びの実現を図るため、「国語」「数学」「英語」の3教科において全学年で、特に数学においては、全時間で習熟度別授業をすすめた。今後も生徒一人ひとりが「学びへの意欲」や「学ぶこと、考えることの楽しさ」を味わえる授業づくりに取り組んでいく。

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」に対し、最も肯定的な回答する生徒の割合は、40.3%だった。また校内調査で全教科95%以上の生徒が「授業に一生懸命に取り組んでいる」ことを受け、生徒がより「まなぶ楽しさ」を感じれる授業づくりを推進していく。

○3年生の中学生チャレンジテストの平均点の対府比は、同一母集団において社会、数学で2ポイント、英語では5ポイント向上した。しかし、大阪市英語力調査におけるCEFRA1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)が大阪市平均54.3%に対し、43.1%と大きく下回った。来年度以降も習熟度別授業等で生徒一人一人の学びの伸長にあわせた学びで向上を図る。

○年度末の校内調査でにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合が51.7%、また肯定的な回答の合計は78.1%と目標には届かなかった。

【学びを支える教育環境の充実】

個別最適な学びと協働的な学びとなるように、一日の生徒の心の状態の変化や生徒一人一人の学習理解度の可視化のためにICT活用をすすめているが、活用率が下がってきているため、改めて効率的なICT活用の共通理解を促し、生徒のまなびを深めたり、広げれる取り組みとして生かしていく。教科によるが、デジタルドリルの活用で生徒の学習履歴や習熟度の確認を実施。保護者の理解は得られているので、家庭への持ち帰り、課題の家庭学習も定着を図り、児童の保護者が付き添いながら…ではなく、生徒の自らまなぶ姿勢を養っていく。

○1月末までの時点では、毎週の学習用端末の活用率は100%。学習用端末の毎日の持ち帰りの徹底で、今年度の大きな課題として見えた「家庭学習」の習慣化および生徒の自主性・主体的な学びにAIドリル等の活用を促したい。

○12月末時点での状況で、基準2の達成率は82.1%と、昨年度の65.5%より大きく増加したが、目標には届かなかった。平均時間外労働時間は、49時間08分(昨年:53時間40分)だった。特に部活動指導に従事している教員の休日出勤や時間外勤務が顕著であった。長期休暇での学校閉庁日の設定など、有休取得促進は図れたが、「健康」に留意した働き方や「健康管理」の意識向上を今後も継続して図っていく。

大阪市立大和川中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を95%以上にする。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめ・差別を許さない学校づくり。人権学習の年間計画を立て計画的に実践する。</p> <p>いじめアンケート調査・生徒教育相談を定期的に行うと共に、生徒ボードの活用を高め一人ひとりの生徒情報・心の天気を把握し、共通理解を深め、適切な指導を進める。</p> <p>指標：生徒教育相談・保護者懇談を各学期に実施し、いじめの正体の学習を系統的に取り組む。いじめアンケートを毎月実施し、検証する。令和5年度末の校内調査において、学校が認知したいじめについては、解消に向けての対応率を100%にする。</p>	B
<p>取組内容②【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>宿泊オリエンテーションを柱とした秩序構築を進める。新たに不登校になる生徒をうまない、学級・学年集団づくりを進める。家庭との連携を深め、きめ細かい生徒指導を行う。</p> <p>指標：校内調査における「学校に行くのが楽しい」の項目の肯定的な回答を令和4年度より5ポイント向上させる。主任会・職員会議・運営の計画等での生徒情報共有。保護者・関係機関との連携。SSWを中心としたケース会議。不登校対策委員会（年3回以上）行う。</p>	B
<p>取組内容③【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>年間指導計画にそって、防災・減災に関する授業（講話、説明、地域防災訓練への参加）や「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。学級活動や各教科横断での継続した防災学習に取り組む。</p>	B

指標：火災想定と地震想定避難訓練をそれぞれ年1回、救急救命法（AEDを含む）の講習を各学年、年間2時間以上実施する。学校保健委員会を中心に生徒活動を進める。住吉区地域防災訓練に全校生徒で参加する。	
取組内容④【施策2 豊かな心の育成】 全ての教育活動を通して、「あいさつがしっかりできる、人の立場にたって考え行動できる」人づくりを進める。年間35時間の道徳の時間を大切に活用する。読み物資料等を活用し、道徳授業づくりを進める。「命を考える」教育活動を柱とした平和維持学習に取組み、「自立する力、他者を意識し思いやる心」の育成を図る。	B
指標：校内調査の「人の役に立つ人間になりたい」85%以上、「家庭や学校、地域ですすんであいさつをしている」95%以上にする。特に道徳の授業では、読み物資料を活用し、年次研修教員中心に公開授業を行う。また校内調査の「学校では命の大切さについて学ぶ機会が多い」95%以上にする。	
取組内容⑤【施策2 豊かな心の育成】 社会体験（キャリア教育、職業講話、ボランティア活動等）実施し、自分の将来を考えるよう指導する。また、進路選択への情報提供をきめ細かく行う。	B
指標：職業講話（1年）、職業体験（2年）、高校出前授業体験（3年）、またボランティア清掃（年1回以上）を実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【施策1 安全・安心な教育環境の実現】 ICTを活用し行っている校内調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合が86.6%あり、目標の85%以上を達成した。生徒教育相談、保護者懇談では、生徒一人ひとりの実態把握、情報共有に努めている。また、不登校生徒の対応としてはチャレンジルームとも連携して改善に努めた。</p> <p>取組内容②【施策1 安全・安心な教育環境の実現】 今年度も、4月に宿泊オリエンテーションを実施し、教職員の共通認識を深める中での生徒指導を行い秩序構築を進めた。また、校内での情報共有、状況に応じて関係機関、ケース会議を定期的実施することで、きめ細かい生徒指導に努めた。</p> <p>取組内容③【施策1 安全・安心な教育環境の実現】 地震・火災想定避難訓練を7月に実施した。町会別での避難を想定し、町会別での活動時間を設けた。</p> <p>取組内容④【施策2 豊かな心の育成】 学校生活を通し、他者を意識し、あいさつ活動を大切にしたい教育活動を行うことに努めた。道徳授業では読み物資料を活用し多面的に思考できる授業を行っている。7月には授業力向上のための研究授業・研究協議も行った。チャレンジルームの先生方を中心に要支援生徒の状況把握にも努めた。</p> <p>取組内容⑤【施策2 豊かな心の育成】 1年は1月に職業講話、2年は7月にはSPトランプ、9月にはOBFに出前授業を実施していただいた。また、11月下旬に職業体験も実施した。3年は7月に高校出前授業体験を実施し、11月には面接出前授業を実施した。地域清掃については実施予定である。また、3年を中心に、進路の手引きの作成、進路説明会や進路学習、説明会の案内など進路選択への情報提供をきめ細かく行った。</p>	

次年度への改善点

取組内容①【施策１】

生徒一人ひとりの情報を把握し、適切な指導を行うためにも、生徒ボードの活用に関しては、今後も活用を行い教職員での共通理解を深めていく必要がある。いじめについて学校が認知すること、解消に向けての対応を徹底していく。

取組内容②【施策１】

不登校生徒に対しては、チャレンジルームとも連携していく。状況に応じて外部との関係諸機関とも連携し、ケース会議等を定期的実施していく必要がある。

取組内容③【施策１】

学校と地域の連携、地域と家庭が協力することで、総合防災訓練の内容をより深めることができる。今後も、生徒の防災に対する意識を高めていき、地域の防災活動（住吉区総合防災訓練など）につなげていく必要がある。

取組内容④【施策２】

校内調査において、「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に答えた生徒が 97.1%、「家庭や学校、地域ですすんであいさつをしている」と肯定的に答えた生徒が 90.1%であった。目標達成できている項目もあるが、子どもたちが自発的に行動できるよう、日々の教育活動を行っていく。

取組内容⑤【施策２ 豊かな心の育成】

今年度についての社会体験は各学年で概ね計画通り実施できた。3年生になったときにしっかりと進路を子どもたちが定めていくためにも、できる限り社会体験や進路学習を通して、どんな職業があり、どんな学校へ進学すれば実現できるのかを提示していきたい。次年度以降も、子どもたちが自分の将来を見据えるきっかけ作りができるよう柔軟に考えていきたい。

大阪市立大和川中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を60%以上にする。</p> <p>○大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を79%以上(昨年：78.6%)にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合を60%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を80%以上にする</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>5教科で単元テスト・小テストを実施する。A I ドリルの活用や学習の振り返りを早く短い期間で行う事で、早期問題解決につなげる。個別の学習支援を放課後や長期休業中などの生徒自主学習時間を設定し、生徒の自主学習を支援する。</p> <p>指標：中間テストを廃止し、小テスト・単元テストを実施する。きめ細かな個別の学習支援を行う。</p>	B
<p>取組内容②【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】国語・数学・英語における個に応じた学習内容および習熟度別授業等を行う。(習熟度レベル上位層の更なる伸長および、下位層の引き上げにむけた取り組みを行う。)</p> <p>指標：校内調査における「授業はよくわかる」「先生に質問しやすい」の肯定的な回答を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【施策5 健やかな体の育成】</p> <p>全国体力・運動能力、運動習慣調査で「長座体前屈」「シャトルラン」の項目を昨年度より2ポイント増加を目指す。(大阪市平均を上回る)</p> <p>指標：体力の保持増進のために基本的な生活習慣を身につけさせる。また、毎時間、補強運動を行わせ基礎体力を身につけさせる。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容① 単元テスト、再テスト、放課後学習指導などを実施し、きめ細かな学習指導、課題解決に努めている。</p> <p>取組内容② 「授業はよくわかる」80.6%、「授業でわからないところについて、先生に質問できる」81.6%。</p> <p>取組内容③ 柔軟性が課題だった「長座体前屈」については、男子が大阪市平均を5ポイント上回り、昨年度より7ポイントの向上となった。「シャトルラン」については、毎年、大阪市平均を10ポイント以上上回っている。また、大阪市平均も大阪府平均も全種目で超えることができた。</p>
次年度への改善点
<p>取組内容① こまめにテストを行っているが、一つ一つの重みが少なくなっている現状がある。学習への取り組み方を見直すとともに、テストの在り方を再考する必要がある。。</p> <p>取組内容② 2年連続でどちらのアンケート結果も向上している。今後も習熟度別指導を続ける。</p> <p>取組内容③ 次年度も維持できるようにする。</p>

大阪市立大和川中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<div>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</div> <div>全市共通目標(中学校)</div> <div>【ICTの活用に関する目標】</div> <div>○学習者用端末を活用した家庭学習を週3回実施する。</div> <div>【教職員の働き方改革に関する目標】</div> <div>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を85%以上にする。</div> <div>学校の年度目標</div> <div>○学習用端末を活用した家庭学習を週3回以上実施する。</div>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の育成】 ICTを活用した授業づくり（次世代学校支援事業支援モデル校）	—
指標：ICT活用によりわかりやすい授業づくりを展開し、チャレンジテスト（1,2年生）における正答率を大阪市平均に近づける。	
取組内容②【施策7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を85%以上にする。	B
指標：「仕事と生活の両立支援プラン」等も踏まえ、性別に関係なく教職員が働きやすい環境づくりを行う。	
取組内容③【施策8 生涯学習の支援】 子ども相談センター、警察機関、区役所（地域子育て支援）やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携を深め、相談活動を進める。また朝読をはじめ、読書文化の継承と更なる推進を図る。（図書館、図書紹介、読書感想）	B
指標：住吉区学警連絡会等と生徒の情報交換を行い、指導の方向性を確認する。 校内での不登校生徒を減らし、暴力行為件数のゼロ件を継続する。全国学力・学習状況調査の「授業時間以外での1日あたりの読書時間30分以上」を令和4年度より10ポイント向上させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【施策6】 授業でのICTの活用は進み、生徒のICT活用能力の向上も見られる。後期には「がんばる先生 支援事業」として、公開授業および研究協議を実施した。1,2年生チャレンジテストの結果が出ていないため、届き次第各教科で振り返りを行う。	

取組内容②【施策 7】

12 月末時点での状況で、基準 2 の達成率は 82.1%と、昨年度の 65.5%より大きく増加したが、目標には届かなかった。平均時間外労働時間は、49 時間 08 分(昨年: 53 時間 40 分)だった。

次年度への改善点

取組内容①【施策 6】

授業での ICT の活用は進んでいるが、それが授業に効果的に利用できているかどうかの検証が十分になされているわけではない。また、スクールライフノート等の学校全体の活用率においては大阪市平均を 10 ポイントも下まわっている。個別最適な学びを深めていくためにも、毎回の授業を評価し、改善することや生徒一人一人の見取りがより一層必要となる。改めて、教職員が ICT の効率的な活用を共通理解し、教育活動に生かしていく。

取組内容②【施策 7】

長期休暇での学校閉庁日の設定や健康に留意した働き方や健康管理の意識向上を今後も継続して図っていく。

令和5（2023）年度

運営に関する計画

- （1）教務部
- （2）各教科
 - ①国語科
 - ②社会科
 - ③数学科
 - ④理科
 - ⑤音楽科
 - ⑥美術科
 - ⑦保健体育科
 - ⑧技術・家庭科
 - ⑨英語科
- （3）生活指導部
- （4）健康整備部
- （5）道徳委員会
- （6）進路委員会
- （7）教育課題検討委員会
- （8）特別支援教育
- （9）ICT 委員会

大阪市立大和川中学校

(1) 教務部

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが、目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況		
①教務 教育活動を滞りなくおこなうことができるよう、教務作業を進める。	指標 ・年間行事、月中行事、時間割、補欠割り当て、日課表、テスト範囲、テスト計画、テスト監督表、問題解答保管、素点一覧管理、成績一覧管理、チャイム、出席統計、時数統計、転出入処理、生徒名簿作成、要録管理、教育実習、教科書、副読本、視聴覚、進路等についての作業 ・上記作業についての知識の伝達	B	B	
②校務 ICT 校務系仮想 PC 上の作業についての理解を深め、職員全体に共有する。				
指標 ・校務 ICT システムの活用研究 ・必要な研修の実施	B			
③カリキュラム調整 教育課程と行事予定について調査と調整をおこない、時間割を改善する。 学習指導要領に基づき、各教科の評価基準について調査と検討をおこなう。	B			
指標 ・習熟度別授業に合わせた時間割の立案と改善 ・授業時数確保のための時間割調整 ・次年度評価基準の作成				
現状と分析				
①役割を分担しながら教務作業を進めることができた。				
②校務系のシステムについては職員全体で理解が進んでおり作業に困る事自体が少ないため、全体研修は実施せず個別で説明をすることで解決できた。				
③随時時間割を更新し、授業形態の変化に対応した。評価については研修内容も含め、学校全体でより良いものとなるよう検討を続ける。				
下半期・次年度への改善点				
現状の取り組み内容のレベルを高めることが課題である。 特に、生活アンケートで「自分で計画を立てて勉強している。」の項目のスコアが令和3年度から4年度、5年度と低下していることから、生徒目線に立った学力向上に向けたカリキュラムの調整や、テスト計画表の改善などが必要である。				

(2) 教科の重点①〔国語〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【基礎学力の定着】漢字学習に重点的に取り組み、基礎学力の定着を図る。	B	B
② 【言語能力の育成】音読やスピーチ、作文の時間を年間15時間以上取り入れ、言葉の大切さや楽しさを学ぶ。	B	
③ 【個に応じた学習指導】提出物の完成を目指し、個に応じて提出を支援する。	B	
④ 【自主学習習慣の定着】テスト前一週間は始業前や放課後等を活用して、自主学習を支援する場を提供する。	B	
⑤ 【習熟度別少人数授業の実施】生徒の現状を把握し、個別に最適な授業を展開する。	B	

現状と分析

- ①各学年、週末課題や単元テスト前において漢字プリント作成、小学校の漢字の復習も兼ねて取り組むことができた。また、習熟別授業で特に文法や語句などの知識の問題にも積極的に取り組み、基礎学力の定着をはかっている。次年度以降さらに基礎学力の向上を図りたい。
- ②定期テスト、単元テスト、また課題としてや、週末課題として作文指導を行っている。起承転結に成り立っての文章構成や、課題に適した文章作成など、生徒たちは前向きに取り組んでいる。
- ③漢字プリントの提出をはじめ、ワークやその他プリントの提出率は、上がってきている。しかし、なかなか完璧に仕上げるのが難しい生徒もいるため、プリント作りの工夫をこらしながら、課題の量等も再検討していく。
- ④自主的に取り組める課題を配布。基礎学力の定着と共に、自ら考えやり遂げる生徒も増えてきた。
- ⑤引き続き、わかりやすい授業のため習熟度別授業の在り方も含め、教材研究を継続していく。

次年度への改善点

- ・国語科としての習熟度別授業の在り方をさらに考え、今年度とは違う展開の仕方で最善の方法を模索する。来年度から新たに開始される総合的読解力向上の授業も含めて検討する。
- ・日々の学習で身につけた知識を、スピーチ等において、自分の言葉で表現ができるよう、コラボノートなどの ICT 機器も使用し、今後も積極的に取り組んでいく。
- ・提出物の提出率が 80%以上になるよう、声掛けを引き続き行っていく。

(2) 教科の重点②〔社会〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【基礎学力の定着】 授業準備・規律を徹底し、日々の学習習慣を育成するとともに、個別に最適な学習に取り組むことを目指す。	B	B	
② 【発信力の育成】 班活動などのアクティブラーニングを通じ、自ら疑問について調べ、共有し、発信できる学習機会を授業の3割程度確保する。	B		
③ 【習熟度に応じた学習指導】 定期的に単元テストや小テストを実施し、その内容に合わせた補習や教材提供を行うことで、チャレンジテストでの対市平均の数値上昇を目指す。	B		
④ 【自主学習習慣の定着】 ドリルの活用や自主学習ノート、またプリント学習について、すべて自主提出とし、主体的に学習に取り組む習慣の育成を目指す。 (自主提出であるが提出率80%以上になるようマネジメントを行う。)	B		
⑤ 【情報活用能力の育成】 GIGA 端末を活用し、プレゼン作成や調べ学習、パフォーマンステストの場面で、ルーブリックに則した成果物が作成できているかを評価することで、情報活用能力の育成を図る。(パッケージ提供も並行して行い、インクルーシブ学習への取り組みも進める)	B		
現状と分析			
基本的な学習規律を意識しつつ、様々な場面で個別最適な学びやアクティブラーニングの手法を用いた学習活動を展開した。 結果としてアンケート結果などに伸びはあったが、ペーパーテストなどの結果上昇には繋がっていない部分もあった。			
下半期・次年度への改善点			
プレゼンやスライド作成・班活動・ゲーミングアプリ・VR など一斉授業ではなく、探究活動に軸足を置いた授業の展開を定期的に行ってきた。その活動が生徒個人にしっかり浸透する（なぜその活動をしているのかのメタ認知）まで至っていなかったとアンケートから推測することができるため、次年度に向けて授業展開を再構築する必要があると考えている。			

(2) 教科の重点③〔数学〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【基礎学力の定着】 要点をまとめたものを別途用意し、より分かりやすく生徒へ提示することで効率の良い学習へ繋げる。	B	B	
② 【言語力の育成】 ICT 機器などを活用し、協働的な学びを通じて数学的知識の定着を目指す。	B		
③ 【個に応じた学習指導】 到達度別学習課題を作成し、個に応じた学習支援を行う。	B		
④ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 基本的に毎時間課題を設定し、個に応じた課題も設定する。	B		
⑤ 【習熟度別授業の実施】 学年全体において、学習到達度に応じた習熟度 3 分割授業を年間を通して行う。	B		
現状と分析			
① 各学年で各コースの生徒の実態に合わせて要点をまとめたプリントを作成し、基礎的事項を振り返り復習しやすいようにした。			
② デジタル教科書や学習者用端末も使用し、自分の言葉で数学的に説明をすることができるよう、グループやクラスで発表する機会を設けた。			
③ 学年全体の共通課題だけでなく習熟度コース別の課題を作成して取り組ませることで、特に苦手意識のある生徒についても主体的に取り組めるような学習支援を行った。			
④ 家庭学習の習慣化のためにできるだけ毎時間課題を出した。苦手な生徒が多いような課題に関しては、取り組みやすいようにヒント教材も準備し、クラスルームも活用して課題に取り組ませた。			
⑤ 各学年で年間を通して習熟度 3 分割授業を行った。			
下半期・次年度への改善点			
・今年度全学年で年間を通して行った習熟度 3 分割授業だが、教材によっては様々な習熟度の生徒が互いに影響しあうことでより良い学習に繋がっていくこともある。来年度に向けてより効果的な分割時期、方法、授業の進め方、共通教材と習熟度別教材の活用等更に工夫していく必要がある。			
・生徒の基礎学力だけでなく意欲を向上させるためにも、来年度も引き続き、放課後の再テストや補充学習、個別課題などの対応を進めていきたい。			

(2) 教科の重点④〔理科〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
①【基礎学力の定着】 a. 毎時間の授業の目標と既習事項をはっきりさせる。 b. 基礎的な知識の小テストを小單元ごとに実施し、学力の底上げを目指す。	B	B
②【言語力の育成】 生徒の素朴概念を科学概念へと発展させる「発問」を工夫し、授業に組み入れ、発表やグループワークを行う。	B	
③【個に応じた学習指導】 a. 必要に応じて補習を行い、個々の学習進度に対応する。 b. ICT、演示実験などの教材を工夫し、体験的な教材や生徒による観察・実験などを單元毎に実施する。	B	
④【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 家庭において計画的に学習する習慣を身につけさせるため、ICT や問題集を活用する等して單元ごとに課題として提示し、確認する。	B	
現状と分析		
①a. 毎時間の授業の導入で既習事項の確認、本時の目標を提示している。 b. 各学年、各單元区切りで小テストと單元テストを実施している。 ②理科室での取り組みやデジタル教材の活用により生徒の興味・関心を高め、発表や話し合いを行わせた。また、夏休みの自由研究の他、様々な單元で実験の予想など発表の場を設けることで、一人一人が発表する機会を増やした。3年生では現在エネルギーと環境について調べ学習を行っている。 ③a. 希望する生徒を対象に、長期休暇や放課後の時間を使って補習を行った。 b. 演示実験やデジタル教材を用いて指導を行っている。 ④家庭学習習慣定着のために單元ごとの課題を与え、提出させている。		
次年度への改善点		
・主体的・対話的な授業となるよう、様々な側面から発表の場を増やし、自分の意見を表現できる授業づくりを模索していく。ただ、話し合いで詰まる場面も見られるので、議論できるくらいの知識をつけさせる必要がある。また、科学的思考が身に付くよう発問や授業形態についても研究し、「理科好き」の生徒を増やしていく。 ・各授業の導入・内容・まとめの組み立て方をもう一度見直し、子どもたちの興味・関心を引き出す授業作りを行っていく。さらに、効果的に記憶に定着できる仕掛けも考えていく。 ・学力向上のためにテスト前の補習等を行った。補習を受け続けた子どもや積極的に質問してくれる子どもは一定の効果が点数に表れていた。しかし、補習をしなくてもいいくらい、日々の授業をわかりやすいものになるよう見直していく。また、百問繚乱や外部テストを用いた分析を基に、弱点部分の補強を行い、基礎的な内容の反復学習を継続していく。		

(2) 教科の重点⑤〔音楽〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【基礎学力の定着】 基礎学力を定着させるために、授業内で歌唱、器楽、鑑賞、プリント学習を行い、音楽の基礎的な学力や技術を身につける。	B	B	
② 【言語力の育成】 言語活動の育成として、音楽に関する批評文を書かせ、音楽に対する思いや意図を言語で表現できるようにする。	B		
③【個に応じた学習指導】 歌唱を行い、読譜の苦手意識を克服できるようアドバイスを行う。全員が技術を習得出来るよう、声掛けを行う。	B		
④【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 基本的な知識と技術の定着を図るため、長期休業中に課題をだし、家庭での練習習慣を身につけさせる。	B		
⑤ 【規律、習慣付け】 毎時間のワークシートや批評文を必ず提出させる。	B		
現状と分析			
① 歌唱に対しては前向きな生徒が増え、発表する機会も多くなったことから、自己表現する力がついた。器楽（リコーダー）に個人差がかなりついているため、グループでの教えあいの活動に時間が必要であると感じた。			
② 音楽を聴いて感じたことを言葉にすることに難しさを感じている生徒が多数いる。			
③ 今年度は歌唱に力を入れた。歌唱発表をすることで声を出すことへの抵抗がなくなったように感じる。			
④ 自分の好きな音楽を調べ、身近にある音楽がどのような要素で形作っているのか興味・関心を持たせた。			
⑤ 振り返りシートを行うことで毎時間の自己評価を行うことができた。			
下半期・次年度への改善点			
・ 1・2年生は合唱コンクールの取り組みに対する意欲をあげさせる。			
・ タブレットを使用しての創作活動に興味を示す生徒が多いため、他の歌唱や器楽でも利用していく。			
・ 器楽活動ではグループを組んで得意・苦手とする生徒が教え合い、共有できる場面を増やしていきたい。			

(2) 教科の重点⑥ [美術]

目 標 :	美術の表現活動と鑑賞活動を通して、身近な生活の中にある美しいもの、価値のあるものを感じ取る感性を育み、よりよいものを求めて自分なりの意味あるものとして表現していく態度の育成と準備力・創造力・集中力の定着を図る。
-------	---

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【基礎学力の定着】年間で作品を3点制作させる。3年間を通して計画的に作品づくりを行い、準備力・創造力・集中力の定着を図る。	B	B	
② 【言語力の育成】作品制作後のまとめや鑑賞レポート作成や発表を行い、美術的な感動を言語によって表現する力を養う。	B		
③ 【個に応じた学習指導】生徒に対する助言や技術的指導を丁寧に行い、制作中の作品に対するこだわりや悩みを細かく拾いあげる。	B		
④ 【自主学習習慣の定着】作品制作を進める中で、生徒ごとに作品制作にかかる時間に時差が生じるため、各学年、各学期放課後の補習時間を設ける。	B		
現状と分析			
① 3学年とも計画通り作品づくりを進めることができた。 ② 作品ごとの振り返りも、補助するプリントを添えるなどして自身の作品や友人の作品の良さや面白さを言語化できる生徒が増えた。また、文章も長く書くことが出来る割合も増えた。 ③ 前期に授業規律や基礎的な知識を定着させ、後期に机間巡視の時間を確保する流れが定着し 集中力や作品自体の完成度が高くなっている。 ④ 制作振り返りシートが定着し作品の遅れも授業内で解決できる生徒も増え、遅れた場合積極的に残り自身の作業内容を管理できる生徒が増えた。			
次年度への改善点			
・文化祭での平面作品の展示は出来たが、立体作品の展示を特活や ICT を利用するなどして多くの生徒に鑑賞する機会を設けたい。 ・木彫の身近なもののデザイン通して、3学年が彫刻刀を安全に使える環境の大切さを理解し、楽しみながら作業をすることが出来た。来年度は怪我などの対応力や養護教諭や管理職との連携、危機管理意識をさらに高めていく。			

(2) 教科の重点⑦〔保健体育〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【基礎学力の定着】 集団行動を徹底して行わせる。 各種目の特性やルールを理解させ、安全に学習を行う態度を身につけさせる。 毎時間、補強運動を行わせ基礎体力を身につけさせる。特に俊敏性と柔軟性が大阪市平均より劣るので、その能力を高める。	B	B	
② 【言語力の育成】 生徒同士で励ましたり、教えたりできる学習環境を整え、積極的に声をかけあえる学習を取り入れる。 集団や自分に適した課題解決のために、学習カードなどを用いて解決方法を考えさせ、生徒たちの前で発表させる時間を1時間に1回以上つくる。	B		
③ 【個に応じた学習指導】 習得技能に応じて課題を設定し学習に取り組ませる。	B		
④ 【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 体育委員と班長を中心に準備運動や用具の準備、片付けなど積極的に行わせる。体力の保持増進のために基本的生活習慣を身につけさせる。	B		
⑤ 【体力向上の推進】 全国体力・運動能力、運動習慣調査で「長座体前屈」「反復横跳び」の項目を昨年度より2ポイント増加を目指す。（大阪市平均を上回る）	A		
現状と分析			
①毎時間、補強運動を徹底して行ったとともに従来の方法と少しやり方を変えたりしたので俊敏性も柔軟性も大阪府、大阪市平均を超えることができた。 ②班活動やペアワークを盛んに取り入れた授業を展開した。学習カードと発表に関しては、ほとんどの領域で取り組むことができた。 ③各領域で支援を要する生徒も含め、少しルールや課題を変えてあげると達成できるものは個別に対応することができた。 ④持久走の授業では少し欠席や見学が多く感じたが、準備や片付けは積極的に行ってくれた。 ⑤体力運動能力検査の結果は想像以上に良かった。大阪市平均も大阪府平均も全種目で超えることができた。			
下半期・次年度への改善点			
次年度も補強運動を丁寧に指導し、行う。班活動も引き続き行うが、班長にもっと役割を与えてもいいと考えている。なるべくどんな領域も見学者や欠席者を出さないように指導していきたい。体力テストの結果は、次年度も維持できるようにしたい。			

2) 教科の重点⑧〔技術・家庭〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【基礎学力の定着】 定期的な小テストを3回以上実施し、平均正答率を70%以上にする。 振り返りシートを活用し、知識の定着、新しい発展した学習を育む。	B	B	
② 【言語力の育成】 実習レポートまたは発表に年間3回以上取り組み、課題を解決するための考えや工夫を書かせることによって、言語力の育成を図る。	B		
③ 【個に応じた学習指導】 実習時の新端末を取り入れた授業展開、生徒の様子を見ながら声掛け等を行う。 定期的な班活動、必要に応じて補習を行う。	B		
④ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 長期休暇中に課題を設定するなど、学習をより身近なものへと活用する自主的な学習習慣の定着を図る。	B		
現状と分析			
①小テストを3回以上実施し、正答率も70%以上で目標を達成できた。技術では振り返りシートを毎時間実施し、基礎基本の定着がはかれている。 ②長期休暇、実習後などに事後レポートを実施し、実習の記録・気づき・反省などを通して自身の成長を振り返るとともに、記述や発表を通して言語力の育成にもつながった。 ③班活動での取り組みの中で、生徒同士の教え合いからお互いに学び合う空間ができている。 ④授業での制作物などを実際に家庭でも活用する取り組みを設定し実際に行ったが、定着しきれなかった部分もあった。			
下半期・次年度への改善点			
①小テストの実施により、基礎基本の部分が以前より身についている。振り返りシートでは、学んだ事柄をまとめる力や言語力を養うこともできるため、この2点を今後も実施していく。 ②休暇中の取り組みも、家庭の人とかかわるきっかけとなり、技術家庭科が目指す、豊かな暮らしに必要な学びを収集できると考えるため、充実させたい。 ③班活動を今後も取り入れつつ、端末を取り入れた実習を展開し、より分かりやすく学びの多い時間となるように展開していく。 ④家庭学習にも力を入れ、学校での学習をより身近に実践していける環境づくりを設定していきたい。			

(2) 教科の重点⑨〔英語〕

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
① 【基礎学力の定着】授業の「基礎・基本」にあたる内容の確認を目的とした単元テストを定期的に行い、再テストで知識の定着をはかる。	B	B
② 【言語力の育成】英語によるアウトプットが多く取り入れられた授業を行い、パフォーマンステストを実施する。C-NET での Team Teaching による授業を年間 15 時間以上実施する。。	B	
③ 【個に応じた学習指導】習熟度別分割授業を実施し、課題に応じた学習を行う。また放課後に学習会を行い、学力のボトムアップを目指す。	B	
④ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題の提示及び自学自習の確立への取組】毎時間プリントなどの課題を与え、授業内においてその課題への取り組みを確認する。長期休暇課題を授業の中でも活用し、取り組みが不十分な生徒に対する指導を行う。	B	
⑤ 【小中連携】遠里小野小学校、山之内小学校の小学 5・6 年生に週 2 回、英語の授業を行い、小中連携を進めていく。	B	
現状と分析		
<p>単元テストや習熟度のクラス別に基礎学力を確認する小テストを行っている。</p> <p>習熟度別分割授業を実施し、知識の定着やそれぞれのコースに応じた学習に取り組むことができています。C=NET とともにパフォーマンステストはコースごとに発表することができた。全体で発表にすることでアウトプットとインプットがスムーズにできる。長期休業中の課題を出したが、取り組みが不十分な生徒に対しては引き続き継続指導している。</p> <p>小中連携では、山之内小学校は継続して英語の授業を行うことができていますが、今年度遠里小野小学校との授業連携は希薄になっている。</p>		
次年度への改善点		
<p>単元テストで基礎学力の確認を次年度も定期的に行う必要がある。習熟度別授業により、学力に応じた学習に取り組むことができるようになった。ただ、コースごとに人数の設定やコース変更の際に評価の仕方など次年度に向けて改善が必要だと感じます。また、年間計画に合わせてパフォーマンステストの時期や取り組み、C-NET の有効的な活用を計画する必要がある。一斉授業、習熟度授業、少人数分割授業など様々な授業形態を必要に応じて計画すること。また、年間指導計画や評価システムの構築など次年度にスムーズに取り組めるよう準備をしている。</p>		

(3) 生活指導部

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが、目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
<p>【 小中一貫教育の推進 】</p> <p>9年間を通して、めざす子ども像「場に応じたあいさつがしっかりできる生徒を育てる」を目標に、教育内容を充実させる。</p> <p>指標：連携行事（中1情報交換、体験学習、部活動体験学習）実施 教職員研修（道徳、ピア・サポート、メンター研修等） 2回 教員相互授業参観の実施 3回</p>	B	B
<p>【 規範意識の向上 】</p> <p>・「言葉づかいは心づかい」「元気よく・気持ちよく、あいさつしよう」の実践。身だしなみを整え、生徒自らが『時間を守る』姿勢を身につけさせる。</p> <p>・体罰根絶への指導体制を確立させ、生徒理解を深める研修会および相談活動の実施</p> <p>指標：登校遅刻ゼロの達成 チャイム着席の定着 正しい服装の着こなしの徹底 生徒会中心による「生徒議会」の実施 「生活指導研修会」実施 4月 随時 生徒理解を深める「教育相談活動」 年3回 随時 体罰ゼロの教育活動を推進する</p>	B	
<p>【 防災教育の推進 】</p> <p>「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。各種マニュアルを策定する。</p> <p>指標：火災、震災訓練の実施。地域別の防災訓練。下校訓練</p>	B	
<p>【 不登校傾向生徒への対応 】</p> <p>・生徒の状況把握を図り、全教職員で共通理解し、個別の具体的な手立てを講じる。日常的に情報の共有、共通理解を行い、生徒の心の変化を早期に把握する。</p> <p>・生徒一人一人の状況に応じた、個別最適な対応。</p> <p>指標：週1回 不登校傾向生徒の状況把握。改善方針の確認。 月1回 全教職員と状況把握。 「生徒ボード」を活用した生徒の情報共有と把握。</p>	B	

健康 体力の保持増進 ③【 健康に関する指導の推進 】 発達段階に応じた健康に関する指導を系統的に行う。	B	
指標：学級活動、保健体育の授業、総合の時間を活用して、薬物、飲酒、喫煙に関する学習会を行う。(全学年３回)(外部指導者を含む)		

現状と分析
<p>大きな指導案件は起きていないが、学校生活、特に授業規律に関しては再度、教職員で共有していく必要がある。</p> <p>学校外トラブルに置いては、今後も外部機関と連携しながら注意していく必要がある。</p> <p>不登校生や登校後の入室が難しい生徒などへの対応なども引き続き、チャレンジルームや区役所とも連携を取りながら継続していく。</p> <p>また、学警連絡会の内容を全体共有する取り組みは今年度も引き続き行っている。</p>
次年度への改善点
<p>現状分析にもあるように、大きな生活指導の案件は減少傾向にあるが、小さなトラブルに目を向ける必要がある。生徒の学校や授業への慣れから起きている事案もあるため、授業規律・黙想・黙食・黙働清掃など、日々の活動での「凡事徹底」を全職員で共通して意識する必要がある。</p>

(4) 健康整備部
 評価基準
 成した
 A : 目標を上回って達成した
 B : 目標どおりに達成した
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった
 D : ほとんど取り組まず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 健康・体力の保持増進 食に関する知識と食習慣を身につけるための教育活動を進める。 指標：食育通信の発行 8 回 小中連携した食育推進連絡を行う。（年 2 回） 長期休業中、食育調査を行う。	B	B	B
② 学校・家庭・地域の連携 学校・家庭・地域の繋がりを深めるために各関係諸機関と取り組みを進める。 指標：救急救命法（AED を含む）の講話を年一回実施する。	B	B	B
③ 感染症対策 免疫力を高めるために、基本的生活習慣を身につけさせる。 消毒作業の徹底、学習環境を整える。 指標：学年集会等で啓発活動を行う。 登校時の健康観察結果の確認、記録簿を管理し情報共有する。 1日1回以上消毒する場所と使用状況に応じて消毒する場所を分けてチェックリストに記録・管理する。	B	B	B
現状と分析			
毎月、保健だよりと一緒に食育通信を発行し、2 月現在、11 号を発行している。 大阪公立大学の学生と連携し、食育活動を進めた。 長期休暇中に家庭科と区役所と連携して、朝食を自炊する取り組みを行った。 毎日消毒作業を徹底して行い、チェックリストに記録し、管理している。 美化委員による学校設備の管理調査を行った。			
次年度への改善点			
区役所・家庭科と連携した食育の取り組みについて、今後も食育展に出展する予定。 自身の健康状態を把握することを意識付けしていく。 地域清掃は 1・2 年で実施できたので、継続していきたい。 大阪公立大学と連携して食生活のアンケートや、骨密度調査を実施したので、分析結果を今後の指導に生かす。 消防署と連携した救急救命活動が実現できた。次年度も継続していく。			

(5) 道徳委員会

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが、目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
<p>道徳心・社会性の育成 ①【 道徳教育の推進 】</p> <p>道徳委員会を中心に年間指導計画を作成する。</p> <p>生徒一人ひとりに、「自分の生き方を見つめ直し、多角的・多面的に物事を考えられる生き方ができるようにしていく」という課題設定で実践を行う。</p> <p>「命を考える」教育活動を柱とした平和維持学習に取り組み、「自立する力、他者を意識し思いやる心」の育成を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>①道徳授業(年間 3 5 時間の実践)</p> <p>②原則、教科書による授業を実践し、授業終了後、生徒に感想シートを書かせることにより、生徒の理解度を把握する。</p> <p>③校内道徳研修会実施</p>	
現状と分析	
<p>①読み物教材を中心に道徳授業を行った。</p> <p>②原則、教科書による授業を実践できており、感想シートも生徒に書かせ、心情が把握できている。時間が余れば、感想を発表させ、クラスの中で意見を共有させている。また、導入で読み物資料に入り込みやすくしたり、グループワークなどを通して主題を深く考えることができるよう工夫をしている。</p> <p>③ 4 月に校内新転任道徳研修, 1 2 月に道徳研究授業・研究協議を実施。</p>	
次年度への改善点	
<p>・「気づき 1」から考えを深め、「気づき 2」で考えを発展させられるよう、しっかり教材研究や校内研修を行える体制を整える。</p> <p>・道徳の授業の充実に向け、それぞれの先生方が資料を深める授業の工夫が行うことができるよう、道徳委員会が中心となって、よりよい授業づくりができる体制を整え、進めていく。</p>	

(6) 進路委員会

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが、目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
道徳心 社会性の育成 ③【 キャリア教育の推進 】 キャリア教育年間計画に沿って、系統立てた教育内容を推進する。		B
指標：職業講話（１年） 職業体験（２年） 高校出前授業体験（３年）		
現状と分析		
１年生	６月には、自分の適性・気になっている職業を知り、将来の夢や希望を考えるきっかけづくりとし、グループワークや発表を行った。１月には７つの業種から職業講話に来ていただき、実際に働いている方々の話を聞くことで「働く」とはどういうことであるかを考えるきっかけづくりとなった。	
２年生	７月にはＳＰトランプの出前授業で自分の適性や強みを知り、９月にはＯＢＦ高校の出前授業を行い、進路への関心を高めるきっかけとした。１２月には職業体験を実施し、実際に現場で働く体験を通して、仕事や働くこと、社会について理解を深めることができた。更に、２月には堺高校の出前授業を通じて、卒業後の進路先としての高校について考える機会とするなど、３年での具体的な進路選択に向けての準備を進めることができた。	
３年生	７月に行った学校長との個人面談や高校の先生方による学校説明及び出前授業等を通して、自分と向き合い、進路に対する意識を高めることができた。１１月下旬には、面接を実施する側である興國高校の先生からの講話・体験学習を実施し、それを踏まえた形で、進路学習、面接練習を行い、進路懇談を通して具体的な進路選択を進めた。	
下半期・次年度への改善点		
◇引き続き、外部講師による講話や体験などを有効に活用するとともに、職業講話の講師などの外部講師については、どの学年でも依頼しやすいような大和川中学校独自の人材バンク、人材の蓄積が必要である。また、子どもたちの可能性が広がる講話先を考えていくことが重要である。		
◇「キャリアパスポート」については、各学期の節目に振り返りを行い、それを次に活かしていけるよう、引き続き活用を図っていく。		
◇子どもたちが迷いなく進路選択ができるよう、３年生になるまでに職業や高校などの知識を身につけさせるキャリア教育を模索する必要がある。		

(7) 教育課題検討委員会

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
課題の把握と解決 ・学校の現状を把握するとともに課題を検討し、それらの解決に向けて取り組む。	B	
指標：週 1 回の主任会 生徒および教職員アンケートの実施 カリキュラムの編成 年間行事予定作成に向けた検討 学力向上に向けた習熟度別授業の実施と課題 中間反省・年度末反省での意見交換		
現状と分析		
現状や課題の把握、検討をおこない、学年や各部、各委員会、各教科でそれぞれ課題を見つけ、解決に向けて取り組むことができた。 学力向上の取り組みについては、チャレンジテストの結果次第で次年度の計画を修正する。		
下半期・次年度への改善点		
アンケート調査と合わせて習熟指導推進委員会を実施し、課題の把握と解決に取り組む。		

(8) 特別支援教育の重点

目 標：	社会的な自立能力向上のため、各関係機関との連携をより強化し、 「個別の教育支援・指導計画」をさらに充実させ、時間割もより一層工夫したい。
------	---

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
① 【個に応じた学習指導・基礎学力の定着】 生徒一人一人の障がいや発達段階、学力に応じた学習課題を厳選して設定し、それらを毎時間見直して、基礎的な知識・理解・技能等を伸ばし、生活に活かせる力をつける。	B	B
② 【基本的生活習慣の確立・健康な生活習慣】 基本的な生活習慣と生活態度をより一層育て、健康で楽しい学校生活が安心して送れるようにする。	B	
③ 【社会参加促進】 集団活動に参加しようとする意欲を養い、好ましい人間関係を育てる。	B	
④ 【個別の教育支援・指導計画について】 保護者の100%参画を促し、計画の内容について保護者の意見を十分に聞いて計画する。「個別の指導計画」に基づく指導を実施し、中間評価・最終評価を行う。 スキップでの「個別指導の記録」の内容を充実させ、それらを全教職員で共有し、個別の支援・指導に活かす	B	
⑤ 【研修について】 全教職員への特別支援教育研修を、年間1回以上実施するとともに、障がいに対する知識・理解の促進、啓発を行っていく。 特別支援教育委員会・職員会議等で、毎月1回情報交換をする。	B	
結果と分析		
① 生徒個々の能力に応じた支援・指導で、学校生活における基本的生活習慣・態度が養われ、登校できなかった生徒もそれぞれのペースで登校できるようになってきた。		
② 習熟度別授業になり、通常学級で授業を受ける時間が増えたことで、通常学級の生徒とも関わる機会も増え、仲間と協力して自分らしさを発揮することができ、自立へ向けて成長できた。		
③ 夏休みに発達障がいに関する研修を実施し、障がいに対する知識・理解の促進、啓発を行えた。		
下半期・次年度への改善点		
①来年度は支援が必要な生徒が増えるので、より時間割や教室の使い方を工夫し、自立能力の向上や基礎学力の定着を図っていききたい。		
②通常学級担任・保護者や関係諸機関との連携を図り、長欠生徒や教室に入れない生徒に対しては、一緒に改善策を検討し、粘り強く対応していききたい。		
③校外学習では、電車の利用や切符の買い方、新しい環境の中での友達との関わりなど、自立に向けて社会参加を積極的に行っていききたい。また作業活動や園芸では、自分でできることを増やす経験を多く作っていききたい。		
④校務支援パソコンを活用し、個別の支援・指導を閲覧することで全職員が共通理解を行う。		
⑤来年度は通級に関する研修を実施できるようにしたい。		

- 9) ICT 委員会
 評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
①ICT 活用の推進 ・新しい機器やソフトが滞りなく導入できるように、必要な研修を適宜行う。 ・ICT 活用の研究を行う。		B	B
指標 ICT 研修の実施、ICT 活用能力の向上			
②機器管理 ・管理台帳の作成をし、機器の保守点検や確認を年2回行う。		B	
指標 機器管理台帳の更新、運用			
現状と分析			
・年度当初に ICT 研修を行った。校内だけでなく校外に対してのソフトウェアの推進を行った。 ・機器管理台帳の作成および、定期的な不具合の確認を年2回行う予定である。 ・新規に導入された機器等の使用方法など、スムーズな対応ができた。			
次年度への改善点			
・ICT 委員会の担当者だけではなく、全員が基本的な対処ができるような環境を作っていく。 ・必要な機器は回収し、管理できる環境を整えていく。また、管理台帳の再確認も行っていく。 ・役割を細分化し、円滑に問題解決ができるよう図っていく。 ・マニュアルなどをデジタル化し、管理していく。			